

令和7年度

森林土木工事に関する技術者アンケート
～現場技術者の声～

令和7年5月

(一社)日本林業土木連合協会

はじめに

一般社団法人日本林業土木連合協会（以下「林土連」という。）は、全国14の林業土木協会の協力のもと、林業土木に携わる会員の技術力の向上、経営基盤の強化などに関する事業を行い、もって国土の保全及び地球環境の保全並びに林業土木事業の発展に寄与することを目的として諸活動を行っています。

近年、地震や豪雨などによる自然災害が激甚化・頻発化している中、森林土木を取り巻く環境は、技術者の減少や高齢化、建設資材の高騰、時間外労働の上限規制などの働き方改革、生産性の向上への対応など大きく変化しています。

森林土木工事に携わる技術者は、このように大きく変化する様々な環境に対応するため、さらなる技術力の向上を目指していく必要があります。

このため、林土連では、森林土木工事に携わる技術者が円滑に技術力の向上に努めることができるよう労働環境の改善にも取り組む必要があると考え、会員企業の技術者が日頃感じていることを調査・把握し、今後の活動の基礎資料とすることを目的としてアンケート調査を実施しました。

今回は、全国14の林業土木協会に協力を依頼し、協会ごとに森林土木工事に従事している技術者を10名～20名選出してアンケート調査に協力をお願いしました。その結果、全国の会員企業の技術者178名の方々から回答をいただくことができました。

本報告は、アンケート調査で得られた現場技術者の声を「令和7年度森林土木工事に係る技術者アンケート結果」として取りまとめたものです。

この調査結果は、林土連及び各林業土木協会の今後の活動を検討する資料として活用するとともに、関係機関の方々に森林土木工事に従事する技術者の現状についてご理解をいただくために活用されることを願っております。

本アンケート調査にご協力いただいた林業土木協会や会員企業の皆さま及び現場技術者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

令和7年5月

一般社団法人 日本林業土木連合協会

目 次

1	森林土木工事に関する技術者アンケートの概要	1
2	森林土木工事に関する技術者アンケートの結果	2
	問1 年齢	
	問2 性別	
	問3 所属林業土木協会名	
	問4 実務経験年数	
	問5 令和5・6年度に携わった工事での主な立場	
	問6 令和5・6年度に携わった工事の内容	
	問7 工事関係書類の簡素化の状況	
	問8 情報共有システム（ASP）の利用状況	
	問9 工事の設計変更協議の状況	
	問10 工事成績評定の結果	
	問11 発注者への改善要望	
	問12 普段から感じている現場で改善してほしいこと	
3	森林土木工事に関する技術者アンケートの問一覧	18

1 森林土木工事に関する技術者アンケートの概要

(1) 調査目的

この調査は、森林土木工事の現場技術者が日頃から感じている課題・意向・要望等を収集、把握し、林土連の活動の基礎資料とするほか、林野庁等の関係機関に対する意見や提案等に活用することを目的として実施する。

(2) 調査対象者

令和5・6年度に森林管理署等が発注し、林土連会員が受注した治山工事・林道工事・災害復旧工事において、主任技術者、現場代理人、監理技術者等として携わった現場技術者を対象とする。

(3) 調査方法

1. 全国の林業土木協会ごとに調査対象者を10～20名選出
2. WEBアンケート方式とし、回答者はPC又はスマートフォンで回答
3. 回答者の会社名及び氏名は無記名
4. アンケート調査期間は令和7年4月7日（月）～4月25日（金）

(4) アンケートの調査項目

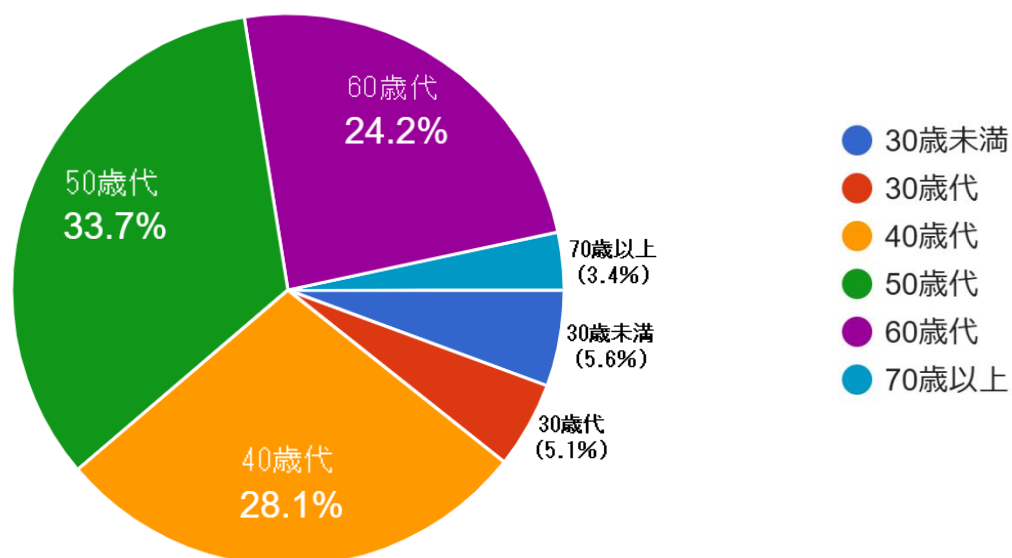
1. 年齢
2. 性別
3. 所属林業土木協会名
4. 実務経験年数
5. 令和5・6年度に携わった工事での主な立場
6. 令和5・6年度に携わった工事の内容（治山・林道・災害復旧）
7. 工事関係書類の簡素化の状況について
8. 情報共有システム（ASP）の利用状況について
9. 工事の設計変更協議の状況について
10. 工事成績評定の結果について
11. 発注者への改善要望について
12. 普段から感じている現場で改善してほしいことについて

2 森林土木工事に関する技術者アンケート調査の結果

アンケート回答者数 178 名

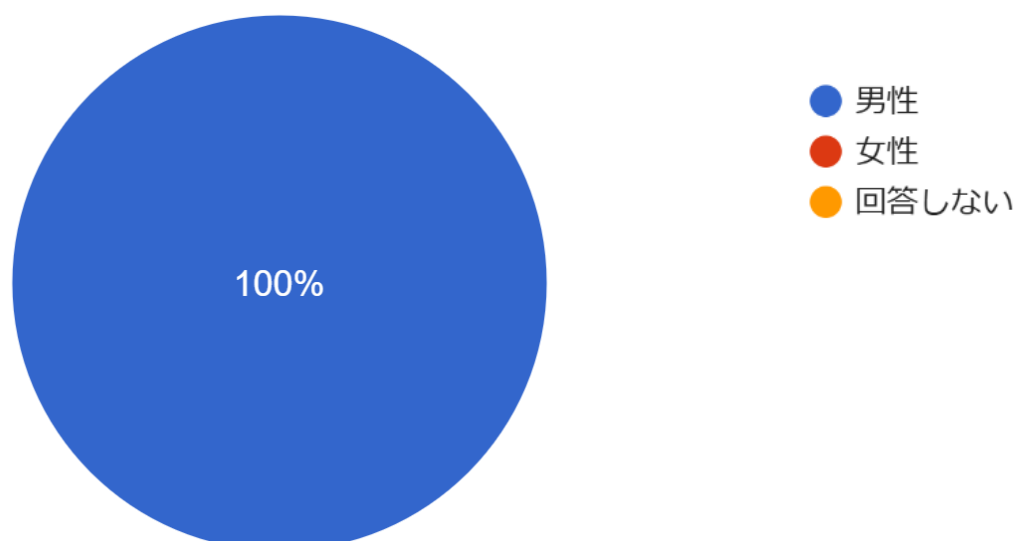
【問 1】年齢

年齢	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
人数	10	9	50	60	43	6	178
割合(%)	5.6	5.1	28.1	33.7	24.2	3.4	100



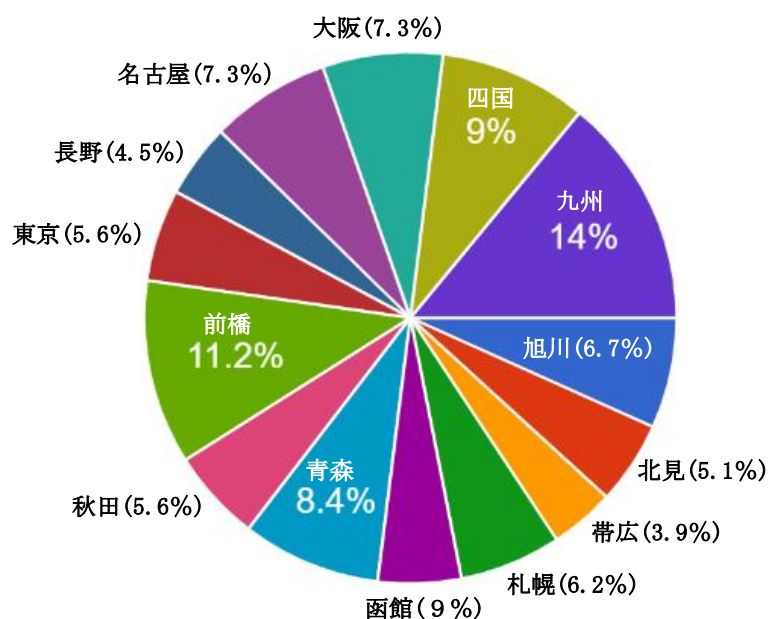
【問 2】性別

性別	男	女	無回答	合計
人数	178	0	0	178
割合	100	0	0	100



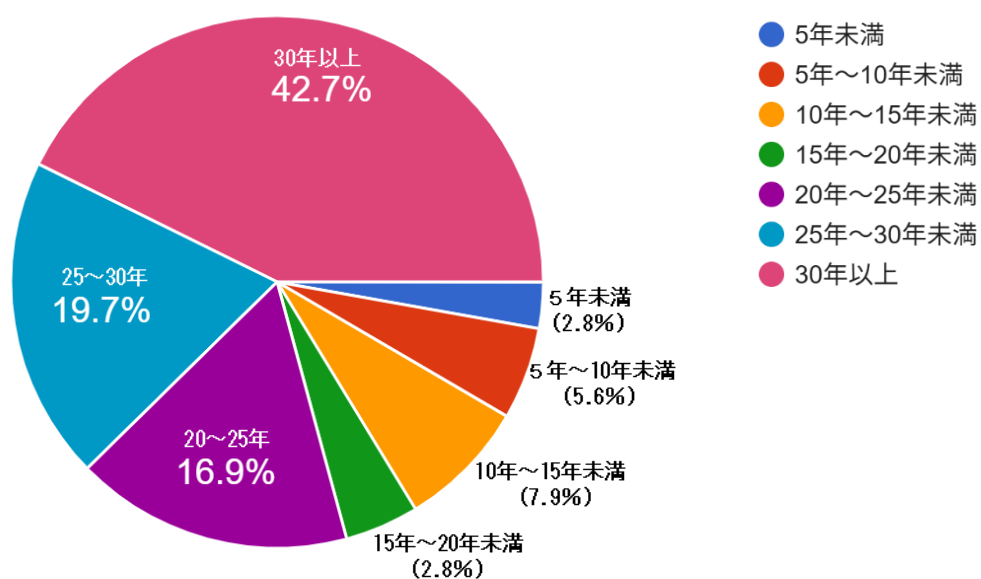
【問3】所属協会名

協会名	旭川	北見	帯広	札幌	函館	青森	秋田	前橋	東京	長野	名古屋	大阪	四国	九州	合 計
人 数	12	9	7	11	9	15	10	20	10	8	13	13	16	25	178
割合(%)	6.7	5.1	3.9	6.2	5.1	8.4	5.6	11.2	5.6	4.5	7.3	7.3	9.0	14.0	100



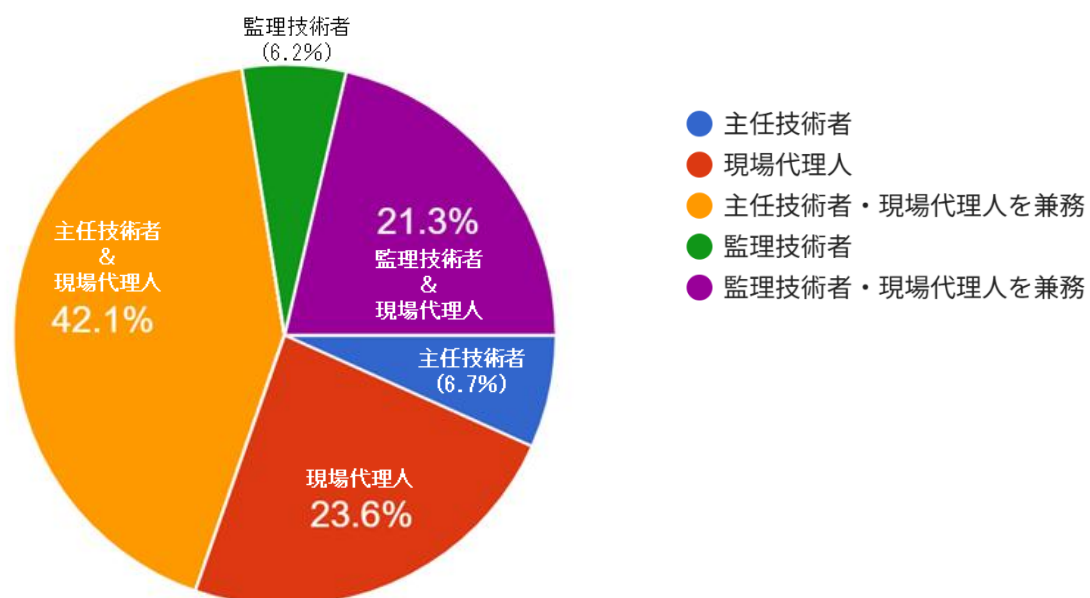
【問4】経験年数

経験年数	5年未満	5～10年	10～15年	15～20年	20～25年	25～30年	30年以上	合 計
人 数	5	10	14	8	30	35	76	178
割合(%)	2.8	5.6	7.9	4.5	16.9	19.7	42.7	100



【問5】携わった工事での立場

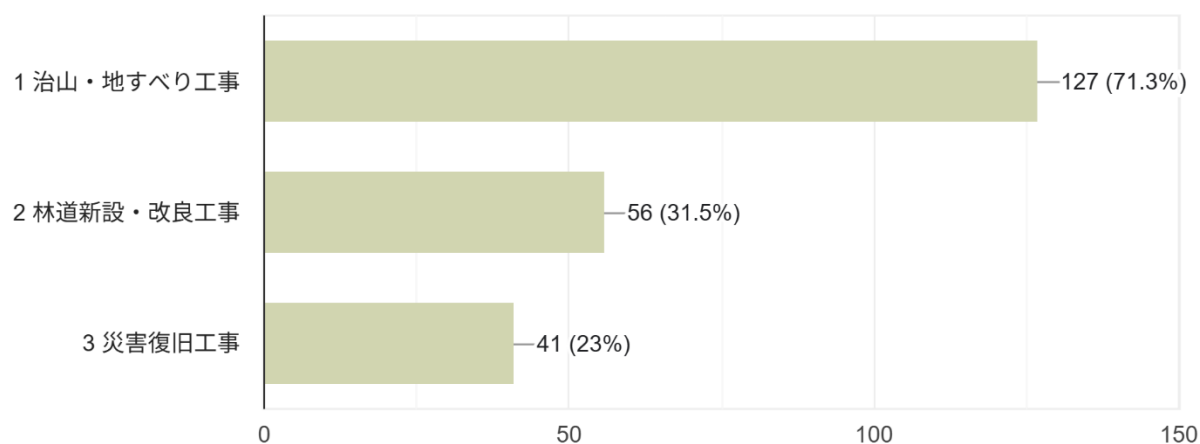
施工上の立場	主任技術者	現場代理人	主任技術者 & 現場代理人	監理技術者	監理技術者 & 現場代理人	合 計
人 数	12	42	75	11	38	178
割合 (%)	6.7	23.6	42.1	6.2	21.3	100



【問6】携わった主な工事

(複数回答)

主な受注工事	治山・地すべり	林道新設・改良	災害復旧	合 計
人 数	127	56	41	224
割合 (%)	71.3	31.5	23.0	—

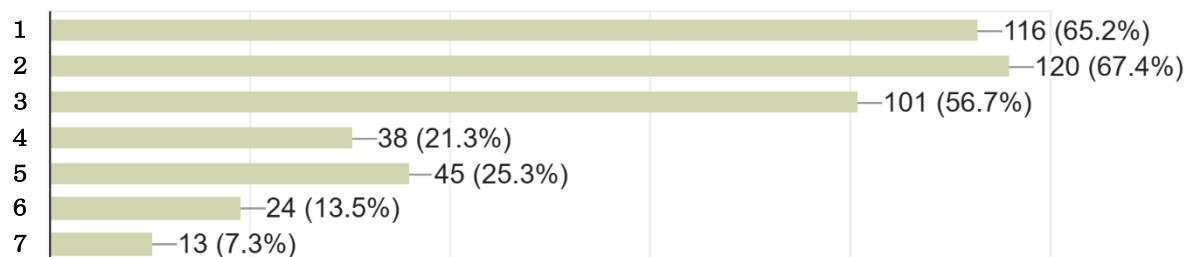


【問 7-1】 工事関係書類は何に使用する書類が多いか

(複数回答)

関係書類	1	2	3	4	5	6	7	その他	合 計
人 数	116	120	101	38	45	24	13	10	467
割合 (%)	65.2	67.4	56.7	21.3	25.3	13.5	7.3	5.6	—

- ※選択肢
- 1 仕様書に規定されている検査（完成・中間）に必要な書類
 - 2 仕様書に規定されている工事打合せ・変更協議に必要な書類
 - 3 仕様書に規定されている出来形・品質管理に必要な書類
 - 4 仕様書に規定されていない検査のための手持ち資料の書類
 - 5 仕様書に規定されていない工事打合せ・変更協議に必要な書類
 - 6 仕様書に規定されていない出来形・品質管理に必要な書類
 - 7 発注者が会計実地検査受験のために必要な書類



【その他】 の意見

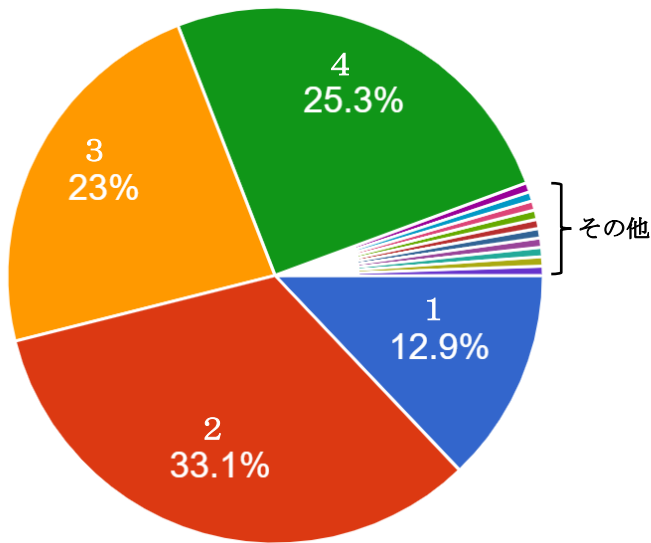
- 資材の出荷伝票、まとめた証明書でも良いのではないかな
- すくな過ぎる、品質管理や施工管理などその現場にあった書類を独自につくるべき
- 履行報告関係 4 週 8 休表、工事日誌等
- 提出書類一覧と工事成績評定点に関する提出書類がリンクしていない
リンクしていないと提出書類が減らない
- 材料の伝票の提出
- 週休二日制資料、工事日報、変更関係書類
- 重複する図書作成が見受けられる
- 特にそうは思わない
- 仕様書規定どおり

【問 7-2】 工事関係書類の作成について感じたこと

関係書類	1	2	3	4	その他	合 計
人 数	23	59	41	45	10	178
割合 (%)	12.9	33.1	23.0	25.3	5.6	100

- ※選択肢
- 1 工事関係書類は簡素化が進んでおらずムダな書類が多い
 - 2 工事関係書類は簡素化が進んでいるがまだムダな書類が多い
 - 3 工事関係書類はムダな書類がないのでこのままで良い
 - 4 工事関係書類はムダな書類はないがもっと減らしてほしい

- 1 工事関係書類は簡素化が進んでおらずムダな書類が多い
- 2 工事関係書類は簡素化が進んできているがまだムダな書類が多い
- 3 工事関係書類はムダな書類がないのでこのままで良い
- 4 工事関係書類はムダな書類はないがもっと減らしてほしい



【その他の意見】

- 工事監督員により言うことが違う。
図面を直せと言ったり、戻せと言ったりなかなか進まない
- 国土交通省・県発注の書類から見ると少ない
- 余裕期間を見込んだ工事の場合、余裕期間中も準備工とすることで、工事着手が早まったとしても工事工程表の変更が最小で済むのではないかと思う
- 納品伝票の提出をなしにしてもらいたい
- 情報共有システムを利用して工事をした場合には電子納品で書類、写真は納品及び検査を願いたい
- 情報共有で写真を提出しているので、別に紙で提出する必要があるのか疑問
- 検査写真の位置づけ（印刷が必要とされている）
- 簡素化されてきているが、監督職員によって書類の多さが違う

【問 7-3】 どの書類がムダまたは簡素化すべきだと思うか

- 工事日報、納品伝票、工事写真アルバム、施工管理担当者通知書、日常の書類（安全関係の点検簿等）を検査書類で提出すること
- 数量や根拠及び実施確認のための書類は当然必要であると思うが、似たような書類を複数種要求するのは無意味、例）作業日数や賃貸日数確認としての請求書、工事日誌、始業前点検表、その他稼働日が確認できる書類等）
- 今までどおりでよい
- 写真管理を電子化にしてほしい
- 出来形図、完成図の二重提出、写真管理及び出来形図面の簡素化

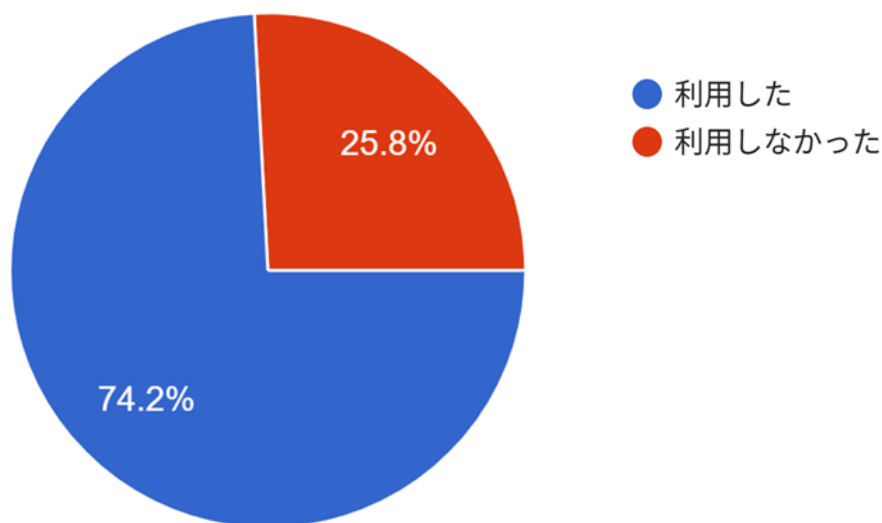
- 週休2日の取組み確認書類⇒計画書も実績書も不要で、工事日報でOKでは？また、実施工程表と履行報告書で良いのでは？
- 高強度ネット斜面安定工⇒写真管理において撮影頻度を全本数・全個数・全面積の10%の管理より、一定基準数値以上の場合には10%から通減させる
- 使用材料（承認願い）・伝票等
- 安全関係書類は他の発注者の場合は提示であるが、現在も提出となっている
- 出来形管理書類
- 品質管理、使用材料承認願いのカタログ（特殊なものを除く）
- 工事書類を電子納品しても紙でもほしいと言われることが多々ある、電子納品するのであれば紙の書類は求めないでほしい
- 工事日誌、納品書、マニフェスト写し、材料伝票提出
- 月々の週休2日制の予定計画、資材伝票、工事日報、資材受払簿、使用機械調書等
- 納品書の提出はしなくてもよいのでは？検討願います また、履行報告書と工事出来形集計表は同じ書類かと思うので、提出はどちらかで良いと思います
- 一般工事における排出ガス対策型機械の使用について
- 簡素化があるといいと思います
- 場合によって工事完成後の書類に出来形図がほしいという話がでる 他官庁では完成図のみの提出なのでここをハッキリさせてほしい
- 承諾書関係、立会、完成検査等の写真、工程写真
- 工事写真を提出する際すべての写真を紙で印刷
- 工事写真帳をダイジェスト版とデータでの納品に変えてほしい
- 打設所要時間一覧表、休日取得計画・実施書、施工計画書の写真設計
- 使用材料受払簿、納品伝票、工事日誌、KY等安全書類
- ICT施工における出来形関係図面・下検査をヒートマップでの提出に変更してほしい
- 資材受払簿・伝票（PDF）・使用機械調書
- 提出書類をASPで提出して協議を行っていたが、最終的にデータでの納品ではなく、紙に提出していたので、ペーパーレス化をお願いしたい
- 納品伝票、立会時計測した書類を完成時に出来形及び施工状況として提出すること
- 納品書（伝票関係）安全（点検簿等）
- 週休2日制の計画書と実施書、品質管理のゆとりの検討表など
- 日報や伝票
- 工事日報、工事写真帳
- 産業廃棄物管理票（マニフェスト）のコピーの提出は集計表のみの提出とし、マニフェストは監督職員の確認で良いのではないかと
また、安全教育訓練等の実施状況資料及び外国人就労者関係の書類は、受注者の整備ほかで請求があった場合に提出できる体制とし、提出は不要
- 出来形集計表の添付書類が多い

- 工事写真は電子納品により簡素化になっているが、工事提出書類と工事成績評定点がリンクしていないため、提出書類は減っていない 簡素化の手引き等を公表し、監督員にも周知しないと減らないと思う
- 履行報告書、工事日報、週休2日実績書、工程に関するものが重複している
- 電子納品対応で作業しているが、完成書類時はペーパーで提出している状況
- 休日取得の書類に各人の名前と実績を毎日書きこむようになっているが、他官庁では稼働した日数のみの報告となっている
- 各種伝票の添付があるが、他省庁では提出の必要はない
- 安全訓練等の実施書類に押印が必要となっているが、他省庁で必要ない
- 提出書類としての施工体制書類等
- 生コン品質管理における強度試験
- 工事写真はアルバムを作成し、印刷して提出しているが、アルバムを作成せず、電子データのみの提出にしてほしい
- 全体的に紙ベースでの提出が多く、SDGsの観点から、できるものは全て電子データの納品にしてほしい 弊社の取組みのひとつでもあり、検査も電子で行うようにしてほしい（監督員の判断ではなく、発注者の方で統一してほしい）
- 写真の頻度
- 電子納品を行っているが、同様に紙での提出も行っている
- 完成書類のうち、材料納品伝票綴りは必要ないと思う
- 材料の受払簿
- 写真管理で、撮影写真が今までとあまり変わっていない 変更協議書の資料が多すぎる
- 工事日誌
- 工事評点算定のために安全書類の提出を求められた
- 承認願い等
- 協議書・出来形管理図表・JIS製品の品質管理（承認願い・ミルシート・納品書）、施工計画書（県発注工事は小規模な工事は提出不要）
- ペーパーレス化にしてほしい
- 伝票・気象データ等の特有な書類
- 週休2日制の毎月提出資料、計画や実施、月ごとの達成率等手間がかかる KYや日報でも証明できるので根拠がダブっている 達成できたかできなかったかだけなので、最終変更時に達成率を報告するだけでよいと思う
- 工事日報の作成提出 機械の稼働時間、人工 労務費調査とダブっている部分もある 天気や気温など不要と思う 他の発注機関では提出はない
- 快適トイレの協議書作成 設置が義務ではないと思うが、義務的に考えている方もいる その場合は経費に一律計上してほしい
- 変更関係資料 各協議書、根拠資料の作成から提出は受注者の義務だが、変更数量計算書、変更図は発注が作成するもの（例えば、変更図の作成は図を描くところまでが受注者、断面算出と数量算出は発注者など具体的な線引きが必要と思う）

- 工事写真帳を作成するのではなく、開発局と同じく電子で行ってほしい
- 納品書、安全関係提出書類
- 安全訓練書類（訓練に使用した書類を添付して提出するのは不要ではないか）
- 現場臨場時の写真の提出 ASPを活用しているが検査時は紙で提出
- 納入伝票等
- 工事履行報告書があるのにまだ工事日報の提出を求められている（他官庁工事では日報の提出はなくなっている）
- 電子納品で書類を作成するが、殆どの書類で紙媒体でも提出を行っている
- 伝票（原本）提出、使用資材一覧表、使用機械調書
- 工事日報、安全関係書類
- 工事日報（リスクアセスメントと重なるから）伝票の廃止（化官庁は提出義務なし）
- 電子データと紙で二重に納品すること
- 重複する内容の工事写真、納入伝票の整理、紙での完成書類の提出
- 紙で提出している書類
- 毎月の履行報告書、休日取得計画書、実績書、材料確認書
- 週休2日制に関する書類等
- 納品書、出来形集計表、履行報告書、検査でのIP確認ほか

【問8-1】施工情報共有システム（ASP）の利用

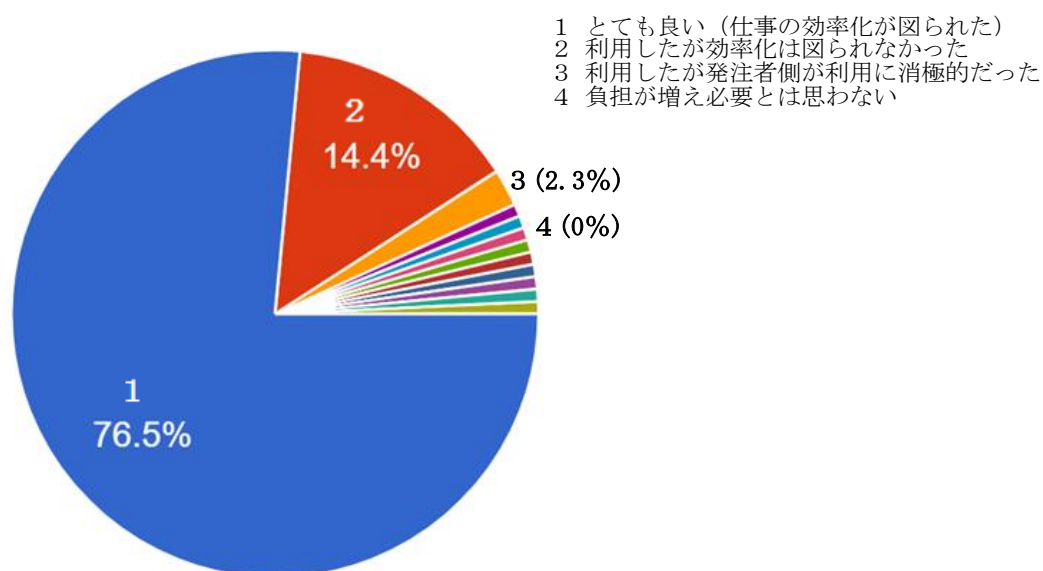
ASP	利用した	利用しなかった	合 計
人 数	132	46	178
割合 (%)	74.2	25.8	100



【問8-2】ASPを利用した感想

ASP	1	2	3	4	その他	合計
人数	101	19	3	0	9	132
割合(%)	76.5	14.4	2.3	0	6.8	100

- ※選択肢
- 1 とても良い（仕事の効率化が図られた）
 - 2 利用したが効率化は図られなかった
 - 3 利用したが発注者側が利用に消極的だった
 - 4 負担が増え必要とは思わない



【その他】の意見

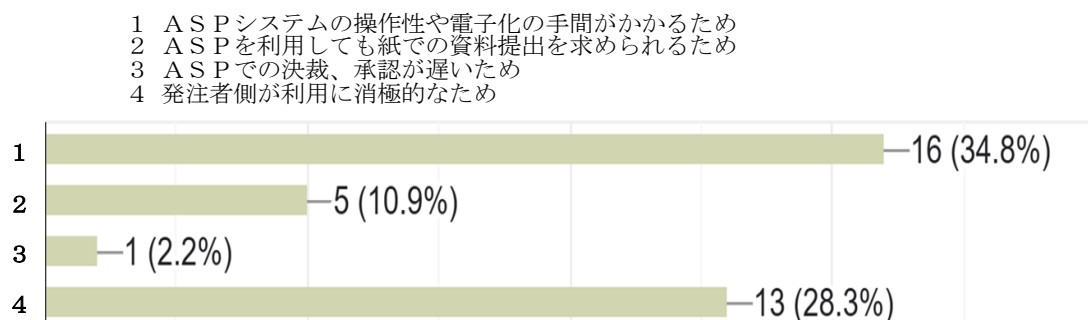
- ASPは良いが、出した書類を印刷しないと分からなくなる
- ASP自体は非常に良いが、協議書とかメールのような使い方をしている監督員がいるように感じる。発議で一枚、その回答で一枚というように従来であれば一枚の協議書で済むことが複数枚の協議書になることがある
- 利用して良かったが、不慣れな監督員もあり、上手くやりとりできない現場もあった
- 現場事務所が山間地で電波状況が悪く、ASPを使用するのに本社まで戻らなくてはならなかった
- とても効率的だと思うが紙媒体の方が適している資料もあるので柔軟に対応してもらいたい
- インターネットの繋がらない現場だったので一旦本社事務所まで戻ってASPを利用するのが負担だった
- 材料承諾の書類が紙ベースでくるのでどうしてもPDFに変換しなければならず時間がかかる
- 竣工書類に印刷した協議書を添付したので施工中は省力化が図れたが検査書類作成の手間は増えた
- 良いと思うが、現場は山間部でWi-Fiが繋がらない現場だった

【問8-3】ASPを利用していない理由

(複数回答)

ASP	1	2	3	4	その他	合計
人数	16	5	1	13	18	53
割合(%)	34.8	10.9	2.2	28	39.1	—

※選択肢
 1 ASPシステムの操作性や電子化の手間がかかるため
 2 ASPを利用しても紙での資料提出を求められるため
 3 ASPでの決裁、承認が遅いため
 4 発注者側が利用に消極的なため



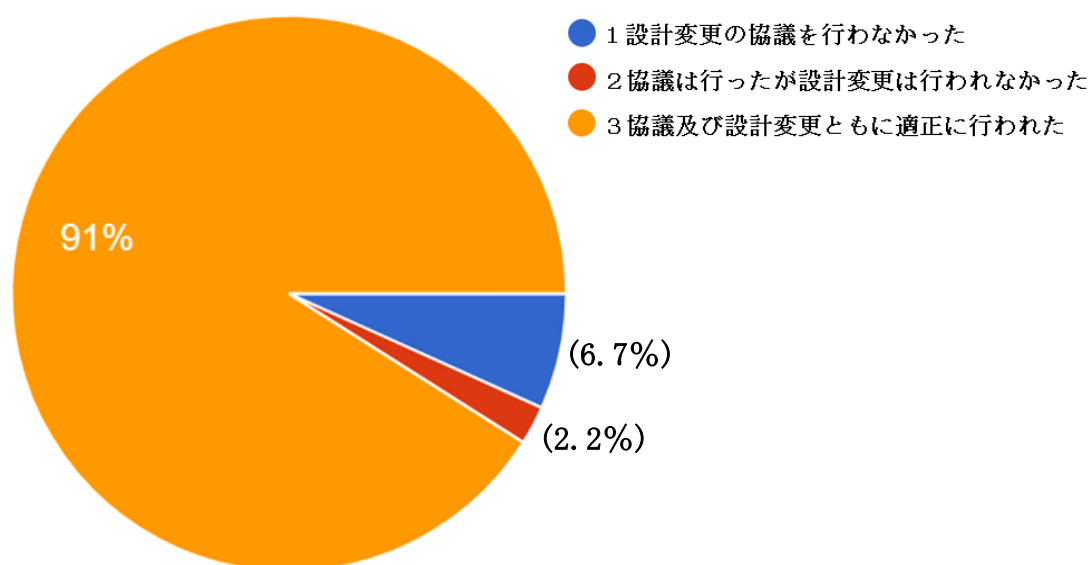
【その他の意見】

- 利用に際して発注者からの指示がなかった
- まだ電子化をしなくてもよい年度だった
- 電波や電源の確保が難しいため
- 現場の通信環境が整っていないため
- 作業所においてインターネット回線が脆弱であったため
- 通信環境がないため
- 山間地のためネット環境が悪い
- 現状で電子納品データのやり取りにASPを用いないやり方で不便になっていない
 また、電子メールと電話で対応できるためASPを利用する利点がまだ見受けられない
- システムの利用が任意だったので今回は使用しなかった
- 必要がないと判断したため
- 現場内の通話環境が悪かったため
- インターネットとの環境が整わなかった
- 電波状況があまり良くない
- 現場の電波状況が悪いため
 また、どこを受注者もスターリンク等を設置できるわけではない
- 通信状態の問題
- 現場の電波状態が悪くネット接続不良や資料送信が困難になるため
- 情報共有するのにインターネットが使用できる環境にない
- 通信が届かない

【問 9-1】設計変更協議の実施

設計変更	1	2	3	合 計
人 数	12	162	4	178
割合 (%)	6.7	91.0	2.2	100

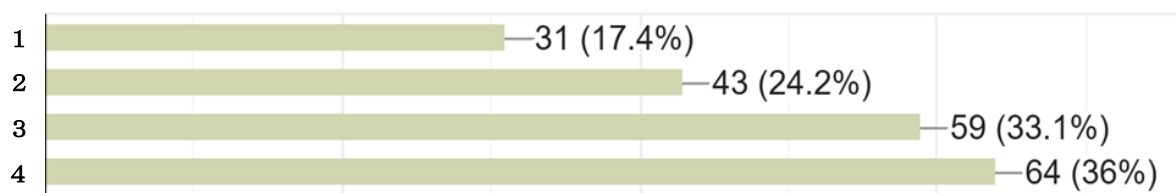
- ※選択肢
- 1 A S Pシステムの操作性や電子化の手間がかかるため
 - 2 A S Pを利用しても紙での資料提出を求められるため
 - 3 A S Pでの決裁、承認が遅いため



【問 9-2】設計変更協議で改善すべき点 (複数回答)

設計変更	1	2	3	4	その他	合 計
人 数	31	43	59	64	12	209
割合 (%)	17.4	24.2	33.1	36.0	6.7	—

- ※選択肢
- 1 作成する資料が多いので改善してほしい
 - 2 設計変更の協議に長時間を要するので改善してほしい
 - 3 協議しても発注者の都合で設計変更されない場合があるので改善してほしい
 - 4 改善すべき点がない



【その他】の意見

- 協議をしてから決定までに時間がかかる
- 萱筋工をやめて植生シートにしてほしい 萱の調達・分割・植付は設計単価の10倍近く費用がかかる 練石積間詰工は、購入材でも石の7～8割は使えないのでロスが多い
- 当初設計コンサルの意見が重視され現場状況確認後の施工業者の意見が届かない
- 現場の施工条件で現場打ちから二次製品への変更を協議願いたい

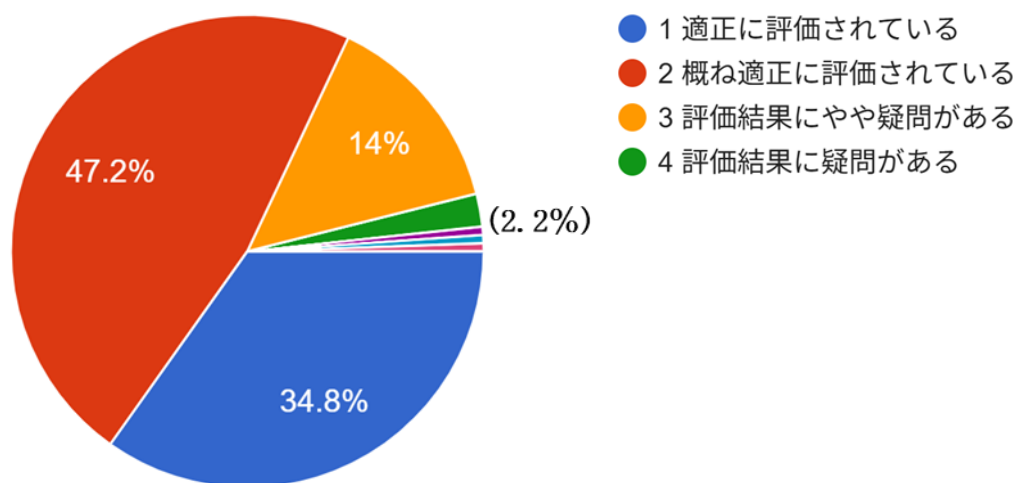
- 土量の検測をやめてほしい
- 局と署の間で協議が認められないことがある
- 当初設計にない項目が現場で発生した場合には新規工種も変更の対象にしてほしい
- 監督員によってルールに差がある
- 協議書、根拠資料の作成・提供は受注者の義務だが、変更数量計算書、変更図の作成は発注者が作成すべき
- 設計変更要領に当てはまらないと言われ設計変更されないことがあった、監督職員によっても温度差を感じる
- 会計実地検査を気にするあまり工事環境を考慮しない場合がある
- 業者側の立場も考慮しつつ適正に変更が行われた

【問 10－1】工事成績評定の結果について

(複数回答)

成績評定	1	2	3	4	その他	合 計
人 数	62	84	25	4	3	178
割合 (%)	34.8	47.2	14.0	2.2	1.7	100

- ※選択肢
- 1 適正に評価されている
 - 2 概ね適正に評価されている
 - 3 評価結果にやや疑問がある
 - 4 評価結果に疑問がある



【その他】の意見

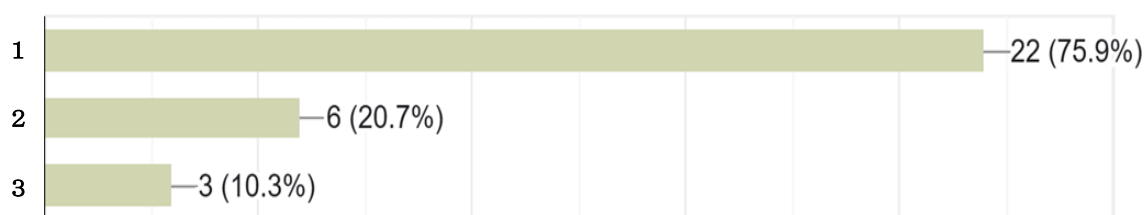
- 現在施工中であるため工事成績評定はまた行われていない
- 適正な評価がなされていると思うが、評定結果の通知に時間がかかっている
また、通知を忘れていたということがあったので改善してほしい
- 署の工事では評定点が低い傾向にある、特に林道は80点以上とれない
以前に80点以上にするとコンクールの資料をつくらないといけないので、意図的に80点未満にしている旨の話を聞いたことがある

【問 10-2】工事成績評定結果に疑問があると思ったこと

(複数回答)

成績評定	1	2	3	その他	合 計
人 数	22	6	3	5	36
割合 (%)	75.9	20.7	10.3	17.2	—

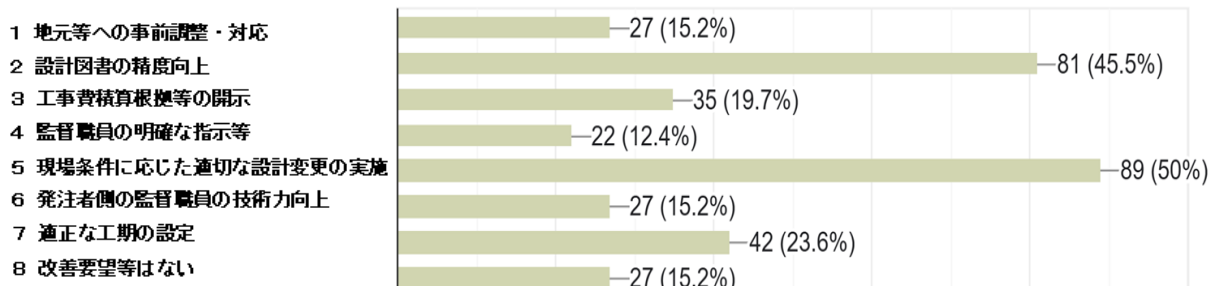
- ※選択肢
- 1 評定結果に個人差があるもしくは恣意的に評価している監督員がいる
 - 2 検査官の評定ウエイトが大きすぎる
 - 3 監督員の評定ウエイトが大きすぎる
- 1 評定結果に個人差があるもしくは恣意的に評価している監督員がいる
- 2 検査官の評定ウエイトが大きすぎる
- 3 監督員の評定ウエイトが大きすぎる



【その他の意見】

- 表彰対象の点数以上をつけると監督員の仕事が増えるのでつきたくないと言われた
受注者も監督員を評価できる制度にしてほしい
- 前回と同様の工事において点数を上げる努力をし、様々な提案を行ったが前回工事より点数が低かった 80 点を超えると監督員の書類が増える聞いたことがあるので、79 点で頭打ちにすることがあるような気がする
- 治山総括の評定ウエイトが大きすぎる
- 根拠が不明
- 現場での企業努力が評価されない

【問 11】発注者側に改善してほしいこと



【その他の意見】

- 積雪や凍結が見込まれる現場は早期発注をしてほしい
- 森林管理署管内の工事でも民地・町有地などの土地を通過しなければいけない場合の打合せ不足

- ICT、3次元出来形管理等で施工した現場で、検査も3次元出来形管理等に対応できるように検討してほしい
- 施工歩掛の見直し
- 豪雪地帯では発注時期を3月～4月としてほしい
- 現地の気候等を考慮した発注時期にしてほしい
- 監督員によって書類の多さが異なる

1 2 普段から感じている現場で改善してほしいこと

谷止工の上流側の出来形写真の廃止（撮影時に危険があるため）、支障木調査から伐採までの期間の短縮（概ね1ヵ月良い施工時期を逃す原因）、余裕期間の撤廃の検討を望みます。
ある程度設計で作業想定などを行って林内の作業範囲許可をとってほしい 重機の出入りや車両の動きなどが考慮されていない作業範囲許可になりその後の協議等に時間がかかったため
治山工事でのモノレールの設計計上（距離と時間だけでなく、高低差も加味してほしい）
働き方改革で週休2日制になり、適切な工事日数でも寒冷地では12月1月2月は仕事が困難になる為、早めの発注をお願いしたい。
書類作成は、担当者により区々なところを統一してほしい。
週休二日制により、作業量確保が、大変になり工期が厳しい、治山工事は特に。
工場成績評価結果について完成検査終了後早期に通知してほしい。
既設道補修等の設計上の回数が少ない
現場で監督職員による段階確認検査を実施しても、規模が小さい工事だと同じ内容、同じ測定箇所です社内検査を実施しています。必要なか聞いたことがありますが、一応行ってくださいとの回答でした。社内検査と段階確認検査の実施日、時間にズレが生じると現場が進まないことがある為、どちらか一方の検査で終わらせてほしい。
大型車両やクレーンの通行が出来ない林道へ、当初設計の歩掛りで見込むのは改善して頂きたい。
今回森林管理署発注の工事を始めて行ったが、検査書類の内容が他の官庁と違う点が多かったため必要な書類がわからず作成に時間を要した。国交省に習っての官庁が多いため、改善して欲しい。
01. 設計（コンサルタント）の技術が適切でない場合や、複雑化しすぎてしまう傾向にあると思います。設計指針やルールに縛られすぎて設計が細かくなりすぎてしまい、結果、複雑な構造になってしまうケースが多々あります。（数量は下がりますが）受注者から施工性は主張できませんが、複雑になると見えない歩掛が発生してしまい金額が合いません。できるだけシンプルな設計をお願いしたいです。
02. 打合せ簿において、受注者からの協議ではなく発注者様からの積極的な指示をお願いしたいです。例えば、土質の変更に伴う、コンクリート構造物の設計変更は受注者からの協議（提案）ではなく、発注者様の再設計による寸法、数量の指示が適切と思います。（規模の大きさにかかわらず）
03. 週休2日制が建設業界に定着し、作業員の働き方はかなり改善されたと思います。しかし代理人・技術者は資料作成で残業が多く、若手の技術者が育ちにくい状態は否めません。今後の建設業界や担い手育成のために、資料作成の簡素化を望みます。
04. 出来形検査と完成検査の検査内容がほぼ同じであるため、簡素化していただきたいです。 又、検査項目・頻度が他の発注機関より多いと思います。現場検査においても面積の30%との記載にもかかわらず、全数測定を行ったり、個人個人で感覚の差があると思います。
・支障木を切る許可が出るまでの期間の短縮 ・ICT施工に対応した発注図面
協力業者の確保が厳しくなっていますので、工期設定の余裕期間を延伸していただきたい。
監督職員の設計変更等の対応を、もっと内容を理解してほしい。
又、お互いの協議なので歩み寄りが必要と思われます。
建設業は作業員の高齢化・若手作業員が入ってこないという問題があるが、働き方改革で週休2日制が進んできているが、作業員の方は日給制になっているので働かなければ給料が安く暮らしていけない。そんな現状の中若手作業員が入ってくるはずがないし建設業を勧めようとも思えない。
週休2日制の制度はとても良いことで取り組むべきだと思うが、それに応じて工事金額の増額や工期の延長を行い、業者が作業員の給料を上げるように行政側から指示や指導がない限り、建設業はますます衰退していくと感じている。
情報共有システムをもっと使用できるようにして紙での提出を減らしてほしい。
現場に即した設計
提出書類の簡素化を早急をお願いしたい。各署で違いがある。
撤去が必要な構造物等についての記載が抜けていることが多いので、設計段階でしっかり調査しておいてほしい。
写真管理について改善し、写真撮影枚数を減らしてほしい。
近年は、設計変更等が円滑に行われよくなっているが、監督職員の技術力が均一ではない為、変更等に時間が要する場合があります。若手監督職員、現場経験の浅い監督職員の場合は、サポートしていただける職員がいると円滑に進むと思います。

林道、治山工事において支障木の事前調査をして早期の工事開始ができるよう要望する
予算の関係もありますが、発注時期を早めてほしいです
経験豊かな技術者や職人が引退を迎えて来ていることで、発注者と受注者のより協力体制で現場運営しないとより良い現場を施工することが困難になってくると思います。
若い技術者や発注者も多くなることで、現場をわかる人材の確保が受発注者でも必要になってくると思います。
・林道工事において設計図面（平面図）の精度あげていただきたい。
・林道工事において基準点を設置してほしい。（IP点以外にも）
署内での意思疎通がとれておらず、監督員の指示が二転三転し非常に困ったことがあった
コンクリート打設前に型枠検査がありコンクリート出来形での確認もあり2重管理となり事前の型枠検査を自主管理とし簡素化に向けてほしい。
完成検査の簡素化について、治山工事の完成検査時の現場での出来形確認は山梨県発注工事では2割程度が対象であるが、林野庁は全て出来形を検測し確認する。（段階確認で担当者が確認している）全箇所現場で確認の必要はないと思う。今後の簡素化を期待する。
索道の設置期間が、工事を早く完成させると短縮されて変更されてしまうことがあるが、受注者の努力により（冬期施工を避けるため等）工程を短くすることが減額対象ということでは理解が出来ない。
設計上や無得ないと思うが人力施工を主として設計しないで頂きたい。建設業は人手不足です。
週休2日が適正に行えるような契約工程の算定基準を明確にして欲しい
新しい人が増えて良いと思いますが、勉強がてらで監督されてもこちらの負担になります。1～2年は勉強してきて頂きたいです。その上で共に向上できたらと思います。
1. 遠隔臨場の実施を行った場合は、出来形管理写真撮影を少量でも省略できないでしょうか。 （配信と撮影で手間がかかります。）
2. 出来形管理写真撮影で床掘完了延長、幅等不可視部分であります構造物の延長、幅等の写真撮影で寸法等確認出来る場合は、少量でも省略できないでしょうか。
*受・発注者間でコンセンサスのとれた事柄が、担当者が替わる度に、設計においても施工においても同じことを再度確認せねばならないことが常々ある。発注者側で、共有すべきものとして、記録・実行してほしい。
・災害復旧工事にて、施工場所の条件が時間がたっている為に、現場条件が違う事が多い。
・当初設計時に、ICT施工での施工の推進して欲しい。
・コンクリート土嚢積等が現場施工に合わない。
・施工に伴う工種・2次製品の資材等が、変更がきかない。
本社から通勤時間等が遠い現場では、作業時間が限られますので現場経費で、計上してほしい
設計図書の照査において誤りや記入ミス、平面図と横断図の整合性がとれておらず、図面を再度編集して書き直す等そのようなミスが多く感じられた。設計図書の精度向上を図って頂きたい。
工事写真（状況）撮影頻度を減らしてほしい
傾斜があり山腹を上り下りする現場にてモノレールを協議であげるが2週間は協議にかかると言われ、工期に間に合わないため、自社持ち出しで設置をするが、同じ現場条件だと分かる中で毎回モノレールは設計にないため当初設計にモノレールを入れて頂きたい。
仮設計画をもっと現場にあっているものにしてほしいです。
準備工段階での現道補修（除草・木の伐採・路面整備）等の計上をお願いします。また、治山工事の土質変化にも対応してほしいです。
治山工事の施工着手前に現場周辺現況の確認・調査を行い、施工箇所付近に危険箇所がある時は、施工前に設計変更で安全対策を行ってほしい。
監督員の出来形確認の頻度を減らしてほしい
現場の地理的条件（離島）に対する設計変更柔軟に対応してほしい。
今年度の工事について発注者の対応が柔軟及び的確で、現場をスムーズに進めることができた。
このことについて、監督職員が変わっても同様の対応をして頂けるよう、発注者側も個々のレベルアップに努めていただきたい。
山間部の現場が多く、路地や狭道を通行しなければならないが、10 t ダンプトラックや0.8m ³ 級バックホウなどの大型車両で積算してある。当初設計の段階で現場や周辺道路の状況に応じた、施工機械や工法の選定をしていただきたい。
積算時、積み上げでなく、施工パッケージをなるべく使ってほしい。
施工歩掛を見直した方がいい。
水替え工がある場合の設計数量が少ないと思う。実際の施工では、平日24時間、土日24時間水中ポンプを使用している。発電機、ポンプも容量の大きいものを使用する為実稼働数量で数量計上できないでしょうか。
現場、管理書類共に監督員によりまちまちで一貫性がないと感じられる事がある。人それぞれに思いがあるだろうが、間違っていない事柄については訂正の必要性があるのでしょうか。
現場設計にしても現場条件にそぐわないことがあり、現場の地形等の条件を十二分に調査、考慮して本当にその方法で良いのかを考えていただきたいと思います。どうも机上で図面等を見て安価な方法を選んでいるふしがあるように思われてならない。現場作業のプロがみて相当な無理があつて任意仮設を行われている業者も随分おられます。出来なきゃとるなでは話にならない。
仮設工の水替え日数を現場に合った積算をしてほしい
工事箇所が固定電話や携帯電話の通信圏外である場合、衛星携帯等を導入できるよう設計変更で対応して欲しい
工事検査時の写真はパソコン内の写真データ確認で出来ないか？→局長・長官・大臣表彰の写真整理方法を改革する必要に迫られるが！
・標準仕様書1-1-1-6 監督職員 2. 監督職員の権限の行使で、緊急を要する場合は監督職員が受注者に対し口頭による指示等を行えるとあるので、権限を行使してその日または早期のうちに回答をお願いしたい。
・発注前に土砂置き場や現地土砂を改良する場合の計画を予め立てておいてもらいたい。
・積雪の恐れがある現場は、書類がすべて揃っていなくても現場検査を実施していただきたい。

発注図面と現地が整合されていないことがあり、測量・図面作成に時間を要することがあり、すぐに着手できないことがあります。状況に応じて測量費・図面修正費を設計計上していただきたい。発注時、受注者希望型のＩＣＴ施工であり、ＩＣＴ施工を希望しましたが、予算の事情で設計計上できないと返答をもらいました。ＩＣＴ施工を見込んだ予算をお願いしたい。そうしないといつまでも、省力化および生産性向上につながらないと思います。
治山工事（谷止工）における土工、特に袖部の掘削法勾配の設計変更について。
治山・林道工事の場合、多くが市街地より遠方の山間部が多い、そのため資材の搬入や作業員の輸送に時間を要し、間接工事費に経費として含まれると言われるが、まだまだ十分ではないと思われる。労働者への手取りが増えるように、魅力ある森林土木工事を目指すのであれば、そういった部分への予算措置も必要だと思う。
地権者等の情報においては、契約後に調査しては着工までに時間がかかりすぎる為、発注前に調査・把握しておくべきではないか 監督職員により提出する書類等が異なる為、統一すべきではないか 監督職員の異動に伴う次監督職員への引継ぎが不十分ではないか
基準点の精度向上。
溪間工、山腹工共に、掘削残土について付近処理ができなく下流域へ滞積させてしまうのが明らかなのに、残土処分を計上していない。
予算執行上難しいとは思いますが工期設定について、山間部において冬季12月～3月は工期から外すことは可能ですか。
治山工事において水替えと敷鉄板の使用は、どうしても付き物だと思います。 例をあげるとすれば、谷止コンクリートを施工するにしても、水替堀を作り水替えを行って施工することは、沢の幅から考えて不可能なので現場条件に応じたポンプの常時排水を見てほしい。また、仮設道路が必要な現場状況で設計では砂利であっても数回車両が走行しただけで、轍が深くなり補修を要する状態になる為、砂利を敷いた後でも敷鉄板を敷くことが可能な柔軟な設計にしてほしい。また、伐開の設計単価があまりにも現実と乖離している為見直してほしい。
電子納品対象とした工事ではないのに、発注者からの要望で写真データ（工事写真の台紙に貼付したすべて）のDVDによる提供を求められました。確認立会の際、B.M.などの各基準点の整合性確認や出来形標高確認などを杭ナビ(LN-150)等の観測機のスマホ画面による提示でも可能するなどして欲しいです。（治山工事では高低差が激しくオートレベルによる観測が難しい場所もあるため）
工事用進入路・仮設道路にかかる費用の改善。
積算する作業機械を現場に合わせ設計してほしい
現場に対応し、施工業者の意見を尊重して、柔軟に現地にあった工法での変更に対応して欲しい。
仮設道等の設計変更範囲が縮小される場合があるため、全面的に設計変更してほしい
工事発注時期が梅雨時期と重なり現場を中止する期間が多く、場合によっては、工期延長の手続きが発生するので、梅雨の期間を一時中止にしその期間分の工期を設定して頂きたい。
監督員が仕様書を理解しておらず、今までそうだったからという理由で仕様書以上の管理を要求されることがある。仕様書で規定していることを理解したうえで現場に指示をするようにしてほしい
現場が山間遠隔地が多いので下請会社の通勤経費が高くなっているので経費率の改善をお願いしたい。
山間部での工事なので通勤時間がかかり作業時間が短縮されてしまうので(特に冬期間)施工歩掛の改善・通勤経費の改善をお願いしたい。
定期的な林道整備が必要である。
スターリンクの採用に本体の費用が掛かるので全額とは言えないが一部を見てもらえると、採用しやすく遠隔臨場や現場環境の改善につながると思います。
去年度施工した工事にて私有地を借地して資材を現場内へ搬入する設計になってたが私有地の使用が認められず別な地主の土地を借地して資材を搬入した、そのため受注してから工事が開始するのに1か月以上遅れが生じたので設計段階から地主に借地の依頼をし許可を得たうえで発注して欲しい。
監督職員によりますが、監督職員立会での材料検査で、すべての種類の写真を撮ることを指示されることがありますが、監督員が確認している臨場状況の写真は数枚（3枚程度）あれば良いと思えますので、改善していただきたい。
段階確認、確認立会について、遠方であるため、どうしても立会等が遅くなることが多く、もう少しタイムリーにできないか検討してほしいです。（工程が遅れてしまいます。）
林道の横断溝（グレーチング）の破損している箇所が多く、通勤車両への影響が大きく、今回においても車両の修理等が多く発生した。（グレーチング等の修繕を早急をお願いしたい。）
通勤補正対象工事であったが、上記等の事より通勤車両にも何らかの補正ができないのでしょうか。

3 森林土木工事に関する技術者アンケートの問一覧

このアンケートは、森林土木工事の現場技術者が日頃から感じている課題・意向・要望等を収集、把握し、林土連の活動の基礎資料とするほか、林野庁等の関係機関に対する意見や提案等に活用することを目的として実施するものです。

令和5・6年度に森林管理署等が発注した治山工事・林道工事・災害復旧工事で、あなたが現場技術者として携わった工事について回答をお願いします。

なお、本アンケートは匿名で実施され、回答いただいたアンケートの内容が森林管理署等の発注者に知られることはありません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、10分程度で回答できる内容ですのでアンケートへのご協力をお願いします。

令和7年4月

(一社) 日本林業土木連合協会 (林土連)
専務理事 堂本 整

- 1 あなたの年齢を選んでください
 1. 30歳未満
 2. 30歳代
 3. 40歳代
 4. 50歳代
 5. 60歳代
 6. 70歳以上
- 2 あなたの性別を選んでください
 1. 男性
 2. 女性
 3. 回答しない
- 3 あなたが所属している林業土木協会を選んでください
 1. 旭川林業土木協会
 2. 北見林業土木協会
 3. 帯広林業土木協会
 4. 札幌林業土木協会
 5. 函館林業土木協会
 6. 青森林業土木協会

7. 秋田林業土木協会
8. 前橋林業土木協会
9. 東京林業土木協会
10. 長野林業土木協会
11. 名古屋林業土木協会
12. 大阪林業土木協会
13. 四国林業土木協会
14. 九州林業土木協会

4 あなたの建設業における実務経験年数を選んでください

1. 5年未満
2. 5年～10年未満
3. 10年～15年未満
4. 15年～20年未満
5. 20年～25年未満
6. 25年～30年未満
7. 30年以上

5 あなたが令和5・6年度に携わった主な工事での立場を選んでください

1. 主任技術者
2. 現場代理人
3. 主任技術者・現場代理人を兼務
4. 監理技術者
5. 監理技術者・現場代理人を兼務

6 令和5・6年度にあなたが現場技術者として携わった主な工事を選んでください
(複数回答)

1. 治山・地すべり工事
2. 林道新設・改良工事
3. 災害復旧工事

7-1 森林管理署が発注する工事関係書類は、何に使用する書類が多いですか
(複数回答・その他は自由記載)

1. 仕様書に規定されている検査(完成・中間)に必要な書類
2. 仕様書に規定されている工事打合せ・変更協議に必要な書類
3. 仕様書に規定されている出来形・品質管理に必要な書類

4. 仕様書に規定されていない検査のための手持ち資料の書類
5. 仕様書に規定されていない工事打合せ・変更協議に必要な書類
6. 仕様書に規定されていない出来形・品質管理に必要な書類
7. 発注者が会計実地検査受検のために必要な書類
8. その他（自由記載）

7－2 工事関係書類の作成について、あなたが令和5・6年度に携わった森林管理署等が発注する工事で感じたことを選んでください

（その他は自由記載）

1. 工事関係書類は、簡素化が進んでおらず、ムダな書類が多い
2. 工事関係書類は、簡素化が進んできているが、まだムダな書類が多い
3. 工事関係書類は、ムダな書類がないのでこのままで良い
4. 工事関係書類は、ムダな書類はないが、もっと減らしてほしい
5. その他（自由記載）

7－3 上記7－2の質問で「ムダな書類が多い」「まだムダな書類がある」を選んだ方にお伺いします。どの書類がムダまたは簡素化すべきだと思いますか。

8－1 森林管理署等が発注する工事でスケジュールや工事書類の管理共有、協議・決裁・電子納品のデータを作成する施工情報共有システム（ASP）を利用しましたか。

1. 利用した
2. 利用したい

8－2 上記8－1の質問で「利用した」を選んだ方に伺います。ASPを利用した感想をお聞かせください

（その他は自由記載）

1. とても良い（仕事の効率化が図られた）
2. 利用したが効率化は図られなかった
3. 利用したが発注者側が利用に消極的だった
4. 負担が増え必要とは思わなかった
5. その他（自由記載）

8－3 上記8－1の質問で「利用していない」を選んだ方に伺います。ASPを利用していない理由を下記から選んでください

（複数回答・その他は自由記載）

1. ASPシステムの操作性や電子化の手間がかかるため
2. ASPを利用しても紙での資料提出を求められるため
3. ASPでの決裁、承認が遅いため
4. 発注者側が利用に消極的なため
5. その他（自由記載）

9－1 令和5・6年度にあなたが携わった工事で設計変更協議は行いましたか

1. 設計変更の協議を行わなかった
2. 協議は行ったが設計変更は行われなかった
3. 協議及び設計変更ともに適正に行われた

9－2 設計変更の協議や設計変更の実施にあたって、改善すべき点を下記から選んでください

（複数回答・その他は自由記載）

1. 作成する資料が多いので改善してほしい
2. 設計変更の協議に長時間を要するので改善してほしい
3. 協議をしても発注者の都合で設計変更されない場合があるので改善してほしい
4. 改善すべき点はない
5. その他（自由記載）

10－1 令和5・6年度にあなたが携わった工事の工事成績評価結果について、感じていることを下記から選んでください

（その他は自由記載）

1. 適正に評価されている
2. 概ね適正に評価されている
3. 評価結果にやや疑問がある
4. 評価結果に疑問がある
5. その他（自由記載）

10－2 上記 10－1 の設問で「やや疑問がある」「疑問がある」を選んだ方に伺います。疑問があると思われたことを下記から選んでください

（複数回答・その他は自由記載）

1. 評価結果に個人差があるもしくは恣意的評価している監督員がいる
2. 検査官の評価ウエイトが大きすぎる
3. 監督員の評価ウエイトが大きすぎる

4. その他（自由記載）

- 1 1 令和5・6年度にあなたが携わった工事で、発注者側に改善してほしいと思ったことを下記から選んでください

（複数回答・その他は自由記載）

1. 地元等への事前調整・対応
2. 設計図書の精度向上
3. 工事費積算根拠等の開示
4. 監督職員の明確な指示等
5. 現場条件に応じた適切な設計変更の実施
6. 発注者側の監督職員の技術力向上
7. 適正な工期の設定
8. 改善要望等はない
9. その他（自由記載）

- 1 2 あなたが普段から感じている「現場で改善してほしいこと」がありましたら記載してください

（自由記載：200字以内）